

令和3年度第2回宮崎県社会教育委員会議

【議事録】

令和3年10月21日(木)

県庁7号館734号室

【生涯学習の視点に立った社会教育の在り方について】

『宮崎県教育振興基本計画 施策1 生涯学習の推進』及び『施策2 地域と学校の連携・協働の推進』についての意見聴取

委員	今回も、前回に引き続き、宮崎県教育振興基本計画について御意見をいただきたいと思えます。前回協議をしまして、生涯学習の推進につきまして、付け加え等ありましたら御意見ください。
委員	まず、社会教育施設の機能の充実として、公民館の機能の充実を具体的にどのように進めていくのかを伺いたいです。また、家庭教育の充実について、県として福祉部局との連携にどのように取り組んでいるのかを伺いたいです。国の方では子ども庁の創設を進めており、今後の市町村への動きにも影響することため、気になっています。地域人材によるチーム型支援について、今の子育て世代の相談先のニーズとしては、近隣住民は少なく、少し距離を置いて専門的知識やノウハウをもったところの方が高いと考えています。そういった時に相談先となるNPO法人等の団体への支援を行っていただければと思います。NPO法人等への委託等に対して補助金を交付するなどの具体的な策があれば相談しやすくなると思えます。加えまして、子育て世代には、共働き世帯が多い状況から、時間を気にせずアクセスできるLINEのような、いつでも、誰でも相談ができるような環境があるとよいと思えます。
事務局	市町村によっては、公民館ではなく、自治会という場合もありますが、地域と学校が連携して学習発表の場や地域行事等に参加する場とするなど、地域学校協働活動を推進する場として公民館の機能の充実を考えています。家庭教育支援における福祉部局との連携については、具体的に福祉部局と連携して行っている事業はありませんが、家庭教育支援条例に基づいて、福祉部局に限らず関係各課との連携として、年に数回担当者会を行い、情報交換を行っています。連携した取組としては、お互いの事業の広報を行っています。チーム型支援の普及については、NPO法人等との連携を検討はしていますが、委託等に対しての補助金の交付は、今のところは予定しておりません。
委員	公民館について、補足説明をします。生涯学習課に県公民館連合の事務局があり、事務局と市町村公民館担当課との連携を図っています。直接、事務局から公民館の館長等とやりとりをすることはありません。県公民館連合では、公民館セミナーや県内7地区で行うブロック別セミナー、県公民館大会を開催するなど、学びの場の提供を通して充実を図っています。また、コロナ禍においては、取組がなかなかできない現状がありますので、全国の事例等の情報を提供して、参考にさせていただくような取組を行っています。
委員	〇〇市の市民協働推進委員をしていますが、社会教育施設機能の充実については、公民館以外にも市町村では様々な取組をしています。一番分かりやすいのは、〇〇市の高校跡地の活用かと思えます。〇〇市では、高校跡地を有効活用して、社会活動をしている団体の基地にしています。〇〇市は施設を設けてスペースを貸し出すなどの取組を行っています。ただ、こうした社会教育施設機能の充実に関する取組は、補助金等、市町村によって全く違っているように思えます。
委員	社会教育施設機能の充実については、ハードではなく、ソフトの充実と考えてよろしいでしょうか。

事務局	<p>ソフト面だけ、ハード面だけとは考えていません。市町村については、〇〇委員の御意見にあったように、各市町村で取組が行われています。県としては、ハードとして社会教育・生涯学習の施設があればよいとは思いますが、十分に補われているわけではないので、教育研修センターを利用して団体等の活動を支援している状況です。また、社会教育施設としては、図書館、美術館等の施設の充実をさせていくということで認識しています。</p>
委員	<p>社会教育関係団体との連携強化について、公民館のことが話題にありましたが、自然学校も社会教育団体と認識しています。現在、社会教育関係団体も多様化し、たくさんあると思いますので、教育委員会が、市町村の社会教育団体を把握し、それぞれの団体の役割をリスト化することが入口としてないと、連携強化を図ることはできないと思います。そして、地域の課題等について協議をする場を各市町村で設け、そこにプラスして、施設があれば、さらに充実を図ることができると考えます。</p>
委員	<p>教育振興基本計画の全体に関するのですが、施策を通してこういった成果が見られたのかを評価するためにも指標が必要だと思います。それぞれの施策について数値目標は設けられているのでしょうか。</p>
事務局	<p>教育振興基本計画の教育施策に関しては、数値目標が設けられています。ただし、生涯学習・社会教育に関して行っている取組について、すべてに数値目標があるわけではありません。数値目標を基に評価をしていくことが大切という御意見として参考にさせていただきたいと思います。</p>
	<p>さきほど〇〇委員から御意見のあった家庭教育の充実について補足説明をします。福祉部局との連携についてですが、福祉部局をはじめ20課・室と連携した庁内連絡会を行っています。子ども庁の話もありましたが、特に福祉部局との連携は欠かせないものと考えています。こうした取組の根拠となるものが、平成28年に施行された宮崎県家庭教育支援条例になります。条例には、地域、学校、企業、行政等が連携して家庭教育を支援していきましょうということが定められています。現在行っている具体的な取組としては、連絡調整がメインになりますが、お互いの事業を知って、各研修会等で広報をしたり、活用したりしながら連携を広めているところです。今後さらに連携を強め、市町村にお示しできるようになればと思っています。次に、地域によるチーム型支援ですが、国として勧めており、県としても推奨しているところです。平成30年度の県の調査では、子育てについて悩みがある回答した家庭は約50%という結果になっています。また、令和2年度に文部科学省が行った調査では、70%の保護者が、しつけや学業、進路など、なんらかの悩みがあると回答しています。こうした状況から考えると、例えば、保護者への学びの提供に関しては、サポートプログラムを中心としたチーム、あるいは、不登校や虐待など、専門的な分野であれば、福祉関係の団体や行政、NPO法人も含めたチームを編成する等、目的に応じてチームを編成して、家庭教育支援を行っていくことが考えられるかと思っています。今後、様々なチームの在り方を提案できたらと考えています。相談窓口につきましては、県教育研修センターにふれあいコールが設置されていまして、24時間対応で相談を受け付けています。なお、保護者がアクセスしやすいLINEなどのSNSを使った相談窓口についても、他課の方で検討されているようです。もっとこういったところにも相談窓口があるとよいという御意見があればお願いしたいと思います。</p>
議長	<p>それでは、ここからは地域と学校の連携・協働の推進についての御意見を伺いたいと思います。まずは、学校を核とした地域づくりについて、あるいは今後必要になること等ありましたら御意見をお願いします。</p>
委員	<p>今年度から、〇〇高校もコミュニティ・スクールを導入していまして、学校運営協</p>

	<p>議会も2回実施しています。その中に、人づくりを行っていく協議会とまちづくりの協議会があり、まちづくりの協議会では、地域の方たちを集めて、生徒をどういうふうに育てていくかについて協議しました。実際、協議を行ったことで、学校が目指す生徒像と、地域社会が目指す生徒像の言葉に違いがあることが分かりました。そこで、共通項をもとに、学校と社会の流れや、人材を融合して生徒を育てていくための戦略会議を行っているところです。また、来年度から実施される新学習指導要領の中で、総合的な探求の時間がすべての高校に義務付けられています。そこで、高校生は、地域と連携した学びに取り組んでいくこととなります。〇〇市には、小・中学校に、〇〇学という学びがあり、小学校、中学校の9年間を通して、地域で子どもたちを育てていきたいと思いますという流れがありますので、子どもたちを地域で育てていく土壌ができていくように感じています。</p>
委員	<p>〇〇町の事例ですが、小学校から中学校の9年間をかけて、地域探求を授業で行っています。中学校では、デザインプロジェクトという取組を始めていまして、実際に、子どもたちが立てた地域課題について探求した成果を、町民に発表しています。すぐにやれそうなこともありまして、朝のラジオ体操を防災無線で流しましょうという提案は実践されています。やりっぱなしにせず実践まですることが大切かと思えます。また、〇〇学校では、中高一貫なので6年間を通して地域学習を行っていますが、町から総務省に提案を出してもらい、関係人口をつくる取組を、町の政策として入れ込み、在校生が提案した事例に予算を付けて実践まで行うようにしています。また、今年は、地域にある唯一の高校である〇〇高校も加えたいと思い、動いているところです。〇〇高校は、学区が廃止されて以降、入学者が減少している傾向がありますので、特色を出すためにも、地方創生の学習を行うことで、魅力をプラスできるのではないかと考えています。また、地域課題の探求に取り組むのであれば、教育委員会だけでなく、市町村部局の地域振興系の課との連携をしていくとよいと思えます。</p>
委員	<p>〇〇市の〇〇中学校がキャリア教育に熱心に取り組んでいます。今年は2回にわたって開催され、1回目は、様々な職種の方による職業講話、2回目は、事業者が挑戦したことや失敗したことを語る人生紙芝居でした。どちらも地元の企業を中心に呼ばれていましたが、子どもたちに地元愛を育むためのとてもよい取組と感じたところです。来年は、市内のすべての中学3年生を対象に実施する意向があると伺いました。</p>
委員	<p>先日、新聞記事に掲載されていましたが、〇〇市の〇〇学園とまちづくり協議会が、帰りたくなるふるさとをテーマにワークショップを行ったようです。地域課題の解決に向けた学校と地域の連携・協働として参考になる事例と思えます。</p>
委員	<p>学校を核とした地域づくりを行っていくためには、まず、学校が持続することが不可欠であると考えます。しかし、〇〇市にしても、〇〇高校にしても、素晴らしい生徒や先生がいるにも関わらず、市外の高校に進学していくという現状を憂慮しています。また、市外に進学する流れは、中学校から高校の段階ではなく、小学校から中学校に進学する段階でも起きています。そこで、今年のオープンスクールは、午前中は中学校3年生向け、午後からは小学生や地域を入れて、開かれた学校ということで実施する予定にしています。学校の存続については、いろいろな機会を捉えて、まちづくりと学校づくりは両輪という考えの下、魅力的なまち、魅力的な学校づくりの実現に向けて、市と連携して取り組んでいるところです。しかし、なかなか止められないというのが事実です。学校と地域の連携については、今回のコロナ禍でリモートシステムが急激に発達しました。〇〇高校では、〇〇市から日本、あるいは世界にという取組として、石川県の高校と東京の大学、そして、ネットシステム企業と連携をして、地域の課題をどうやって解決したらよいかについて、リモートで協議をしました。そ</p>

	<p>の際、学校と全国の大学や企業とをつなぐコーディネーターがいるかどうかが大きいのと感じたところです。地域と学校の連携・協働を進めていくためには、学校と地域だけでなく、学校とさまざまな主体をつなぐコーディネーターを活用していくことが重要と考えます。</p>
委員	<p>〇〇町では、地域学校協働本部のコーディネーターが、中学生の職場体験の場所等の連絡調整を、すべて担っています。また、小学校の先生方の夏季研修で行う地域学習についても、企画や連絡調整を行いました。それらの役割をコーディネーターが担うことで、活動の充実や先生方の負担軽減につながっているように思います。</p>
委員	<p>中学校で学校運営協議会の委員をしておりますが、協議では、学校の運営についての話を中心に、議論の場がつかられていないのが現状と感じています。市内には高校が1校しかありませんが、中学3年生の約半数が市外の高校に進学する状況に歯止めがかからず、学校自体が存続するかどうかの瀬戸際にあります。小学校にしても、こういった体制が整備できるのかと疑問を感じます。こうした現状から考えますと、理想的な改革は難しいのではないかと考えます。そうすると、学校の統廃合をとも考えますが、その結果、地域が廃れてしまう可能性もあり、地元にしてみれば、いたしかゆしの状態かと思えます。</p>
委員	<p>教育振興基本計画の中に、学校と連携しなさいという意識がまだ薄いところがあるのではないかと思います。小学校なり、中学校となり連携して活動はしていますが、目的の共有等の話合いの場をつくる前に、まずは公民館の役員等、地域に、こうした計画について知ってもらうことが必要ではないかと考えます。また、生涯学習・社会教育を担当する行政と公民館との連携もあまりないような気がします。まちづくり協議会でもですが、計画等に対して助言をしたり、情報提供したりして連携を密にしていくことが必要ではないかと思えます。</p>
委員	<p>会議の中でも、地域と学校をどう結び付けていくか、あるいはコーディネーター等について協議をしてきましたが、さきほどの説明を伺って、地域と学校の連携の在り方について、かなり考え方が集約されていると改めて感じました。あとは、こうした考え方を基に、どうやって運営していくかが鍵になると考えます。そのためには、地域の特性や課題を据えたモデルとなる活動を示すことが大切と考えます。こうやればいいのだというモデルが周知されることで、広がっていくと思います。また、これまで活動が地域に限定されがちだったものが、情報化が進んで、いろいろな発信力が備わり、各地と交流できる社会になっています。自分たちの活動を発信しつつ、他の同じような活動をしているところと交流し、活動を比較することで、評価もでき、活動が循環していくような社会になっていくのではないかと考えます。</p>
委員	<p>福祉の活動をしている中で、教育との連携は必要であると感じていますし、地域協議会の委員として、コミュニティ・スクールのモデル校の取組を見て、とてもよい体制ができたと思えました。しかし、実際の取組について、いろいろな方から話を伺うとイメージと違っているように感じています。その原因としては、学校の運営をするための制度、事業なのか、それとも地域のための制度、事業なのか等、目的が共有できておらず、学校と地域の認識が違っているためではないかと考えています。今後、地域と学校で、どう目的を共有していくかが重要になると思います。</p>
委員	<p>今回の協議はここまでとなります。この後、SDG s の講話となりますが、今後の地域と学校の連携・協働の推進に向けた視点の1つとして参考にしていただきたいと思います。ありがとうございました。</p>